

谷如意

ぶじい

儒者。文政五年二月十五日近江國^{おう}梗生れ、明治二十八

年十一月一十六日歿（一八九一—九〇五）。舊姓澁谷、諱鐵（鍛）臣、字旨

鍊、幼名鶴一郎、通稱退一。號太湖、如意山人、醒庵等。江戸^{とう}で林家

の経営^{きぎょう}を學び、長州^{ながしゆ}でオランダ醫學^{いがく}を修め、歸郷^{ききょう}して醫學^{いがく}を營む。

二年登用せられて藩主の侍讀となり、諸々周旋^{すうせん}して勧王派^{けんおうはい}に導いた。

明治元年藩の參政となる。廢藩後大藏大臣に任じ左院一等議官^{ぎがん}に累進^{すえしん}され、六年致仕。七十歳^そで朱子學^{しゆしづ}から陽明學^{ようめいがく}に轉じ、曲林^{くりん}芳樹^{ほうじゅ}の日本弘道會創設に當つては京都支部長となつた。

著書^{しょしょ}に、摘錄^{せきろく}『孝經註本』（明治二十九年五月十六日枕易齋藏版、京都・文口堂）、『如意遺稿』全四冊（明治四十二年二月十日谷譲也、廣田真太郎刊）等。